

社会で活躍する卒業生

A graduate of Shimane University

No. 17

営業職(電気)

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は島根電工株式会社勤務の鍛冶さん、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

生活や業務上の困りごとに真摯に耳を傾けながら快適な暮らしをお手伝い



Profile 鍛冶 虎之介 さん

島根電工株式会社
松江営業所 営業課

島根県江津市出身。2021年3月に人間科学部 人間科学科 身体活動・健康科学コースを卒業。2021年4月に島根電工株式会社に入社する。大学時代に経験した地域での様々な活動経験を活かしながら、営業として、地域の人の生活や業務上での困りごとに対応している。

設備工事業界において山陰エリアNo.1を誇る島根電工株式会社。「住まいのお助け隊」といえば、山陰に住む人にとっては聞き馴染みがあるのではないのでしょうか。同社の松江営業所に勤務しているのが、卒業生の鍛冶さんです。入社以来、営業として、個人住宅や地元の工場、マンション・不動産などを担当しています。「大学時代に学んでいた分野とは全くの畑違いだったため、最初の難関は電気設備に関する知識を身に付けることでした」と入社当時は振り返ります。同社には社員の成長を支援するB・B制度(※)があり、とにかく分からないことは先輩に聞いて、経験を積んでいったそうです。「最初の頃は思うようにできないこともたくさんあって本当に苦労した分、最近ではお客様にきちんと説明できた時は、少しは成長できたなあとうれしくなります。先輩方のおかげですね」。

鍛冶さんが個人宅や企業等に対応する内容は規模の大小も様々です。「最近でいうと、工場の

※B,B(ビッグ・ブラザー)制度…入社3年間、特定の先輩が公私にわたる相談相手となって指導・支援する制度。

照明が古いから取り替えられるか、といった相談を受けました」。現場を見にいくと、工場内では水銀灯が使用されていました。水銀灯はすでに生産が終了していること、また、工場内が暗い印象だったこともあり、照明のLED化を提案。LED化にあたって、補助金を利用できたことから、申請書類の作成等も鍛冶さんがサポートしました。最初の提案から工事完了まで、約半年にわたる案件だったと言います。「お客様から、LEDに変えてから工場内も明るくなって良くなったよと喜んでいただけ、とても達成感がありました」。

外に出て地域を知り、地域が抱える課題を解決 根底の想いが今に通じる

お客様からの喜びの声はもち

ろん、自分自身の成長が実感できることも、仕事のやりがいのひとつになっているそうです。

島根大学に人間科学部が設置された2017年に、学部1期生として入学した鍛冶さん。人間科学部で専門科目を学ぶと同時に、地域人材育成コースにも所属し、地域関連科目も学んでいました。「地元島根が好きだったので、外に出て地域に関わるようなことも積極的にやっていた」と当時の想いがあります。

在学中にはスポーツを通じて島根を盛り上げたいと考え、学部と同級生とともに、「シマスポ」という団体を立ち上げました。「隠岐の島町に住む小学生たちにバブルサッカーやスラックライン等、最新のスポーツを体感してもらえ、イベントを企画しました。離島は、本土に比べると多種多様な最新のスポーツを体験できる機会が少ないので、思いっきり遊んでほしいと考えました」。このほかにも、小学生を対象にした車いすバスケット

ボールやボッチャのイベントなど、開催場所を変えながら定期的に活動を行ってきました。

学部の所属コースでは、実習の一環で県内各地に出向いて高齢者の方の体力測定をしたり、介護予防事業を行う企業で高齢者の方と一緒に運動をしたり買い物のサポートをしたりする機会もありました。また、地域貢献の取り組みのひとつとして、「ために(元気に)長生き」を目指した体操を作成し、その動画撮影にも携わるなど、活動は多岐にわたります。

「島根大学の」とともに地域とともに」というキャッチフレーズ通り、大学時代は地域に出て、いろいろな方と話す機会がたくさんありました。学生のうちに幅広い年代の人と関わったことは、現在の業務において、お客様との接し方やアプローチの仕方等にとっても役立っていると思います。個人のお客様の中には年配の方もいるのですが、提案の際に学部での



コンセントの調整をする鍛冶さん。入社後に第2種電気工事士、消防設備士の資格も取得しました。

学びも役立っていると言います。「自宅に訪問した際に、例えばスイッチの位置はこの場所に変えた方が使いやすいなど、その方の暮らしぶりや健康状態に合わせた生活導線の提案もしています。そういった目線での提案は、身体活動・健康科学コースにいたからこそかなと思います」。

この春で入社3年目、まだ毎日の業務をこなすので精一杯と話しつつも、「僕自身が先輩方からいろいろ助けていただいたように、新しく入社してくる後輩たちに頼られるような社会人になりたいです。地域の方に向けても、ひとつずつ丁寧な仕事をして、信頼して任せてもらえるような関係を築いていきたいです」と先を見据えます。大学生から社会人へと、立場は変わりましたが、地域が抱える課題を解決したいという想いは変わらず、日々の業務の原動力になっています。



現在も定期的に大学に顔を出して、今の仕事について学生に話をする機会もあるそうです。

読者の声

広報しまだい vol.53に寄せられた声をお届けします。

観光分野に興味があったので「学長対談」がとても興味深かったです!

(島根県松江市・10代女性)

島大学生広報サポーターのインスタを知り、大学の様子を知ることができ、楽しく拝見しています。

(兵庫県加古川市・40代女性)

島大の地域密着型の取り組みに好感が持てます。

(島根県出雲市・60代女性)

学外の人が読んで興味を持ちやすいように、社会への影響も踏まえた内容に面白くと思います。

(長野県岡谷市・50代男性)

材料エネルギー学部の魅力を身近に感じられるようにもっと特集してください。

(島根県出雲市・60代男性)